



イタリアと津山にアトリエを構える彫刻家・画家

武藤 順九さん (昭和町)

1950(昭和25)年宮城県生まれ。1973(昭和48)年に東京芸術大学を卒業後ヨーロッパに渡り、1975(昭和50)年イタリアにアトリエを構えた。大理石の彫刻を中心に、抽象的なテーマの作品を手掛け、2000(平成12)年に抽象彫刻としては歴史上初めてローマ法王の公邸内に永久設置された。2019(令和元)年6月に東京都で大理石彫刻園を開園した後、10月から津山市に拠点を移す。70歳。
●ホームページ(武藤順九の宇宙) <http://www.junkyu.jp>、●昭島・昭和の森武藤順九彫刻園(東京都) <http://www.june9-showa-no-mori-akishima.jp>



津山に拠点を移したきっかけは？

今まで50年近くを国外で過ごし、素敵だと感じた場所で仕事をしてきました。70歳になり、日本の自然や地域の持つ歴史に触れながら、日本でのんびり仕事をしたくなりました。妻の実家が津山というのもありますが、古代の日本にとって中国地方、特に津山地域は出雲と京都・奈良を結ぶ重要地でした。語り継がれた歴史と日本の原風景が津山地域にはあります。自分の残りの人生を津山で過ごしたいと思い、拠点を移しました。

新型コロナウイルスの拡大で仕事に影響はありますか？

コロナという存在は生き物であり、どう向き合うかを問われたと思います。イタリアと津山を行き来する予定でしたが、津山から動かないという選択をしました。おかげで、これまでにないほど充実した作品作りの時間を過ごしています。

今後はどのような展開を目指していますか？

外国では、アイデンティティ(自分が自分をどう思っているか、どう表現できるか)を問われます。このことを将来を担う日本の子どもたちに伝えたい。子どもたちには、長いものに巻かれるのではなく、自分の思いや考えを周囲に伝え、表現できる日本人に育ててほしいです。

8月から東北の小学生を対象にした体験イベント「お絵かき寺子屋」を始めました。わたしが絵の描き方を教える場ではありません。子どもたち自身が、墨絵で自由なイメージを長さ6メートルの和紙に描き、物語を完成させます。絵巻物は、いつでも自分の思いや考えを振り返り、見つめ直すことができる宝物として残ります。

わたしが70年生きてきた中で経験してもらいたいことを、このイベントを通じて、皆さんに伝えていきたいです。



▲市内のアトリエで完成した作品について語る武藤さん



▲8月10日に開催した「順九さんのお絵かき寺子屋」(ポートアート&デザイン津山)

※武藤順九さんの作品は、津山文化センター(山下)、ポートアート&デザイン津山(川崎)で展示しています



小中学生のスマホ利用の調査結果で、家族という時に利用することが多いという点にハッとしました。大人ばかりの我が家でも、家族で居間に集まっているのに、それぞれが会話もなくスマホを使っていることが…。いつまでも続く訳ではない、家族で過ごすことが出来る時間。大切にしていきたいです。(☆)

津山城の石垣修復工事の現場見学会を取材しました。秋の撮影スポットだった紅葉の木が無くなっていく風景に驚き、切られた木の下から石積みが見付かったと知り、さらにびっくり。紅葉が無くなった寂寥さと、新たに見付かった遺構に感じる歴史の浪漫との間でちよっぴり複雑な気持ちになりました。(♡)

注目！今月の津山人の取材前日、武藤さんの作品をインターネットで調べました。作品に魅せられ、聞きたいことが次々に浮かび、気が付くと3時間も経っていました。取材の当日、武藤さんを前に話を聞いていると、立場を忘れて作品の感想を話す自分の姿が…。自分を抑える難しさを知った取材でした。(三)

編集・発行
津山市企画財政部秘書広報室(市役所3階)
〒778-8501 岡山県津山市山北520

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報津山は、著作権保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑紙)にご協力ください



津山市公式
フェイスブック



津山市公式
LINE



津山市公式
インスタグラム

